

第56回学生生活実態調査(北海道) 概要報告

全国大学生生活協同組合連合会 北海道ブロック

はじめに 調査概要とサンプル特性について

<調査概要>

調査実施時期	2020年10～11月（1963年より毎年秋に実施 ※未実施年あり）
対象	全国の国公立および私立大学の学部学生
回収	全国 11,028（30大学）うち北海道 1,099 （道内5大学：北海道大、北見工大、室蘭工大、北海学園大(商科大含む)、酪農学園大）
調査方法	Web調査（郵送またはメールで調査依頼し、Web上の画面から回答）
調査項目の概要	収入・支出、奨学金受給、アルバイト、登校日数、オンライン授業状況、サークル所属、就職活動、大学生生活充実度、勉強時間、読書時間、大学生協利用状況など

<サンプル特性>

- 第56回学生生活実態調査は全国で77生協が参加、19,929名から協力を得た。ただし、ここで紹介する全国数値は、地域・大学設置者・大学の規模などの構成比を考慮し、経年の変化をより正確にみるために指定した30大学生協（国立19、公立2、私立9）の11,028名の平均値である。
- 北海道数値は、国立3大学・私立2大学の1,099名の平均値であり、回答者の構成比は文科系35.7%、理工系53.4%、医歯薬系10.9%である。全国の構成比(文科系52.7%、理工系34.3%、医歯薬系13.0%)とは文理比が異なる。

大学設置者別 (人・%)			学年別 (人・%)		
	20実数	20構成比		20実数	20構成比
国公立	607	55.2	1年	316	28.8
私立	492	44.8	2年	280	25.5
総計	1,099	100.0	3年	292	21.1
			4年以上	271	24.7
			総計	1,099	100.0

学部別 (人・%)			住居形態別 (人・%)		
	20実数	20構成比		20実数	20構成比
文科系	392	35.7	自宅・実家暮らし	275	25.0
理工系	587	53.4	自宅外計	824	75.0
医歯薬系	120	10.9	寮	46	4.2
総計	1,099	100.0	下宿	750	68.2
			アパート	371	33.8
			マンション	295	26.8
			学生会館	81	7.4
			下宿、Kなし	1	0.1
			その他	2	0.2
			食事付下宿	28	2.5
			総計	1,099	100.0

性別と専攻 (人・%)		
	20実数	20構成比
男性	685	62.3
女性	383	34.8
否回答	16	1.5
無回答	15	1.4
総計	1,099	100.0

本日の報告内容

1. 今回調査結果の特徴

- ① 新型コロナウイルス感染拡大後としては初めての調査となり、コロナ禍での学生生活の変化や、その中での学生の戸惑いや苦悩が随所に現れる結果となった。
- ② とりわけ入学直後よりコロナ禍での学生生活を強いられた1年生において、2年生以上とは異なる傾向の結果が出ている。

2. 学生の経済状況

- ① 「収入」「支出」とも大きく減少。
- ② 「収入」ではアルバイト収入の減少が目立つ。アルバイト就労状況が全学年で大きく減少しており、今後の生活への経済的影響が不安視される。
- ③ 「支出」減少にコロナ禍での行動制約が見て取れる。
- ④ 「奨学金」は金額ベースでは減少傾向が続き、「給付型」の受給が微増。
- ⑤ 「奨学金」は返済への不安から前年までに続いて金額が減少、「アルバイト収入」が営業自粛・短縮営業などの影響を受けて大きく減少したことから、学生の家計を維持するために「仕送り」が増加したと考えられる。
- ⑥ 自宅生の「小遣い」は減少しており、自宅外生の親元の経済状況にも新型コロナの影響は続くと思われることから、今後の学生の家計維持は不安視される。

3. 大学生活・学生の意識

- ① オンライン講義普及を受け、「授業形態」「登校日数」が急速に変化。
- ② 増加を続けてきた「学生生活は充実している」が急減、特に1年生に顕著な傾向。
- ③ 「就職活動」への不安が増大、特に2～3年生に顕著。

4. 学生の日常生活

- ① オンライン講義を受講する学生は全体で88.0%、1年生・2年生で95%を超える。
- ② 1週間の登校日数「0日」は6人に1人（全国では4人に1人）。平均登校日数は前年から2.5日減少し、週2日～3日程度しかキャンパスに行かない学生の生活に。
- ③ 「友だちができない（いない）」ことが気にかかっている1年生は3人に1人。大学生活が充実していないと感じている1年生のうち、半数が「友だちができない（いない）」ことを気にしている。

1. 学生の経済状況

(1) 自宅生の生活費（図表1）

1カ月の収入合計は4,430円減少、支出合計は3,670円減少／「食費」「交通費」の減少が顕著

- ① 自宅生の収入合計は67,060円。前年から4,430円、18年からは8,500円それぞれ減少した。
- ② 費目別には「アルバイト」が40,580円で前年から1,460円減少した。収入構成比は60.5%で前年から1.7ポイント増加した。
- ③ 支出合計は66,680円。前年から3,670円、2010年以降で最も高かった18年から6,150円減少した。
- ④ 費目別には「食費」（9,350円、前年▲1,540円）、「交通費」（7,660円、前年▲1,340円）の減少額が大きい。大学への登校が減少し、自宅で過ごすことが増えたからと考えられる。
- ⑤ 支出としての「貯金・繰越」は25,190円（前年+930円）と概ね横ばいであった。

【図表1】1ヶ月の生活費<自宅生>

												(円)	(%)
	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	20年 前年増減	増減率
小遣い	9,970	10,200	9,800	10,690	9,800	9,480	10,560	10,860	8,260	9,010	8,170	▲840	-9.3
奨学金	19,010	14,220	18,560	16,700	18,570	18,730	13,850	16,770	20,810	17,240	14,760	▲2,480	-14.4
アルバイト	33,790	34,970	29,980	34,550	32,500	37,360	38,230	40,260	42,230	42,040	40,580	▲1,460	-3.5
定職	310	0	380	200	280	140	490	0	730	1,380	330	▲1,050	-76.1
その他	1,560	1,330	1,500	1,520	1,450	1,720	1,530	1,180	3,530	1,820	3,220	+1,400	76.9
収入合計	64,650	60,710	60,220	63,670	62,600	67,430	64,660	69,070	75,560	71,490	67,060	▲4,430	-6.2
食費	8,720	9,010	8,960	8,880	9,660	9,840	11,300	9,520	12,560	10,890	9,350	▲1,540	-14.1
住居費	0	150	60	490	350	530	1,090	880	1,000	690	2,170	+1,480	214.5
交通費	9,550	7,870	8,260	8,530	8,250	8,280	8,260	8,170	9,090	9,000	7,660	▲1,340	-14.9
教養娯楽費	5,860	6,080	5,900	6,570	6,120	7,400	6,210	7,750	9,580	10,490	9,530	▲960	-9.2
書籍費	1,490	1,240	1,370	1,450	1,340	1,510	1,240	1,090	1,890	1,450	1,310	▲140	-9.7
勉学費	620	1,550	940	910	1,390	900	870	940	1,570	1,570	1,380	▲190	-12.1
日常費	6,090	6,150	5,500	4,650	5,580	5,170	4,630	4,460	6,700	6,330	5,330	▲1,000	-15.8
電話代	3,940	4,210	2,870	3,510	3,100	3,300	2,780	2,640	3,140	2,550	2,350	▲200	-7.8
その他	2,670	1,650	2,370	2,150	2,240	2,520	3,750	2,160	2,920	3,120	2,420	▲700	-22.4
貯金・繰越	22,020	18,020	22,410	24,050	21,970	23,060	22,310	28,640	24,380	24,260	25,190	+930	3.8
支出合計	60,960	55,930	58,650	61,190	60,010	62,520	62,440	66,250	72,830	70,350	66,680	▲3,670	-5.2

(2) 自宅外生（寮生除く）の生活費（図表2・3）

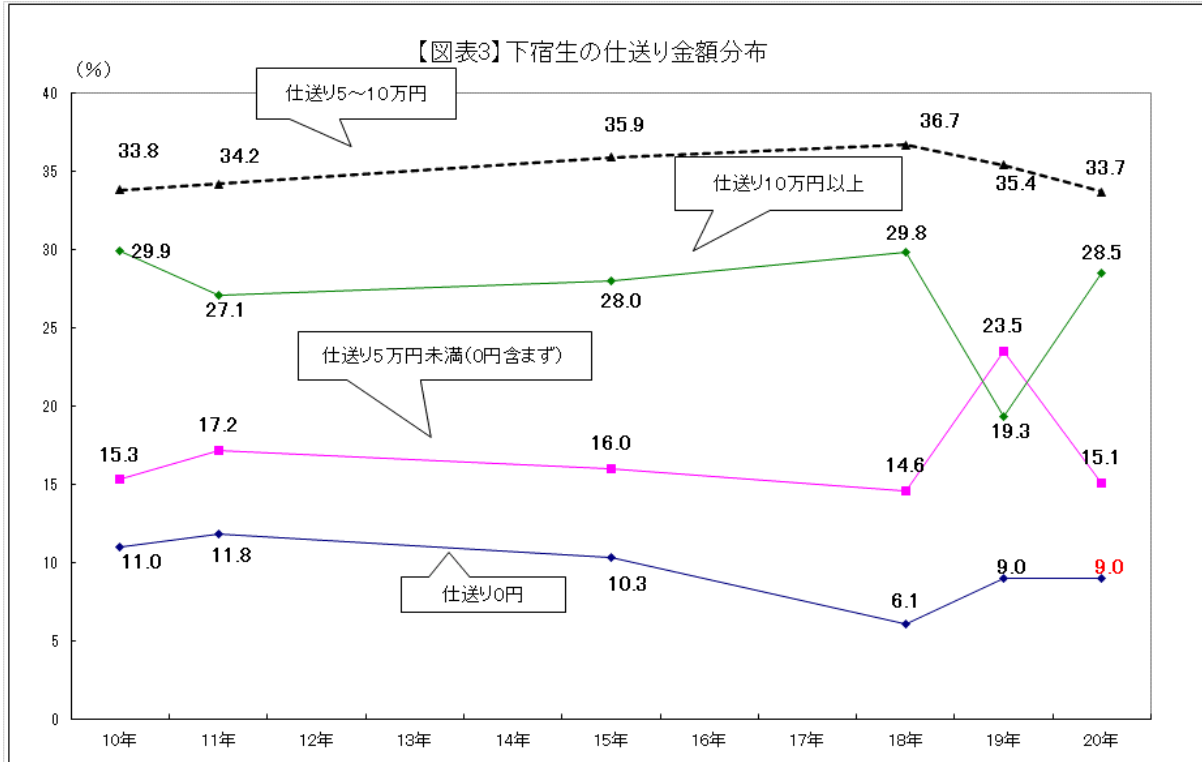
1カ月の収入合計は1,290円減少／アルバイト収入が6,710円減少(減少率20.3%)

仕送り額9,160円増加／仕送り「0」の自宅外生（寮生除く）は全体の9.0%（前年と同水準）

- ① 自宅外生（寮生除く）の収入合計は120,090円（前年▲1,290円）。
- ② 費目別には「仕送り」が69,890円で前年から9,160円増加した。収入構成比は58.1%となっている。仕送り「0」の自宅外生（寮生除く）は全体の9.0%となった。
- ③ 「アルバイト」が26,370円で前年から6,710円減少した。減少は15年から5年ぶりのことだった。収入構成比は22.0%で前年から5.3ポイント減少した。
- ④ 1か月の収入として「奨学金」（20,430円、前年▲3,730円）が減少、「その他（貯金引き出しなど）」（3,240円、同+760円）は増加した。
- ⑤ 支出合計は119,340円（前年▲480円）となった。貯金に回るお金（14,200円）は大きく減少し、生活の余裕がなくなっている様子が見える。

【図表2】1ヶ月の生活費<下宿生>

	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	20年 前年増減	増減率
仕送り	66,640	65,590	69,640	61,810	64,530	69,380	61,270	60,440	71,000	60,700	69,860	+9,160	15.1
奨学金	28,230	24,980	25,570	26,880	26,730	24,330	25,300	26,000	18,140	24,160	20,430	▲3,730	-15.4
アルバイト	18,010	17,550	18,070	23,400	22,910	22,120	25,540	25,850	26,230	33,080	26,370	▲6,710	-20.3
定職	0	0	900	1,060	0	0	220	420	390	960	190	▲770	-80.2
その他	1,740	2,070	2,790	1,640	2,140	2,190	1,900	1,610	4,280	2,480	3,240	+760	30.6
収入合計	114,610	110,190	116,980	114,780	116,320	118,020	114,230	114,330	120,040	121,380	120,090	▲1,290	-1.1
食費	19,120	18,620	20,180	20,870	22,280	23,440	22,250	21,370	25,310	23,860	24,460	+600	2.5
住居費	50,960	47,520	49,720	47,670	49,290	52,120	47,780	49,700	48,810	47,440	51,690	+4,250	9.0
交通費	2,000	2,430	1,890	2,490	2,750	2,310	2,220	1,770	2,420	2,760	1,910	▲850	-30.8
教養娯楽費	7,630	5,910	7,230	7,160	7,230	8,550	7,110	7,910	11,500	11,480	10,470	▲1,010	-8.8
書籍費	1,810	2,180	2,370	1,330	1,310	2,170	1,340	1,230	1,740	1,940	1,960	+20	1.0
勉学費	1,070	1,050	1,500	1,390	1,160	1,500	1,110	1,290	1,980	1,660	1,800	+140	8.4
日常費	5,850	5,400	7,050	5,960	5,910	5,610	4,770	5,530	7,050	6,740	6,730	▲10	-0.1
電話代	4,610	4,700	4,980	4,340	3,970	4,600	4,090	3,940	3,240	3,560	3,410	▲150	-4.2
その他	2,860	3,430	1,870	3,760	2,360	2,900	3,770	2,910	3,290	3,280	2,720	▲560	-17.1
貯金・繰越	12,270	11,820	13,910	17,500	14,100	11,370	14,880	15,530	13,970	17,080	14,200	▲2,880	-16.9
支出合計	108,170	103,070	110,680	112,460	110,350	114,580	109,300	111,200	119,330	119,820	119,340	▲480	-0.4



※ 無回答を含まず

(3) 奨学金 (図表 4) 受給率は減少傾向が続くが、「給付型」奨学金の受給者は増加

- ① 何らかの奨学金を「受給している」は 36.9%で、前年から 4.1 ポイント減少した。返済への不安から、奨学金には頼らない／頼れない学生が引き続き増えていると考えられる。
- ② 20 年 4 月から対象が拡大された日本学生支援機構の給付型奨学金受給者は 7.5%と 5.2 ポイント増加し、給付型奨学金の受給者は 9.8%と前年から 4.7 ポイント増加した。貸与型受給者 (28.9%) は、給付型受給者 (9.8%) の約 2.9 倍となっている。

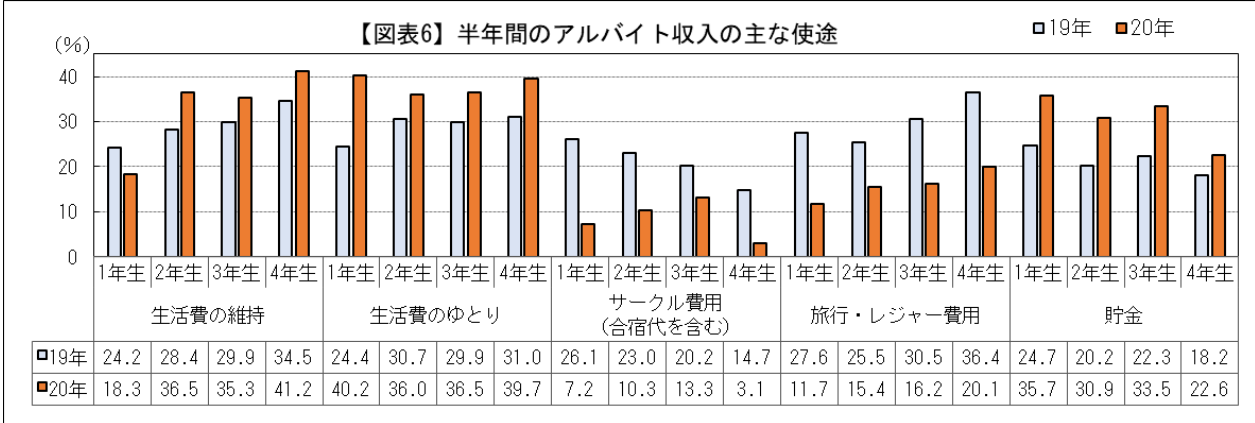
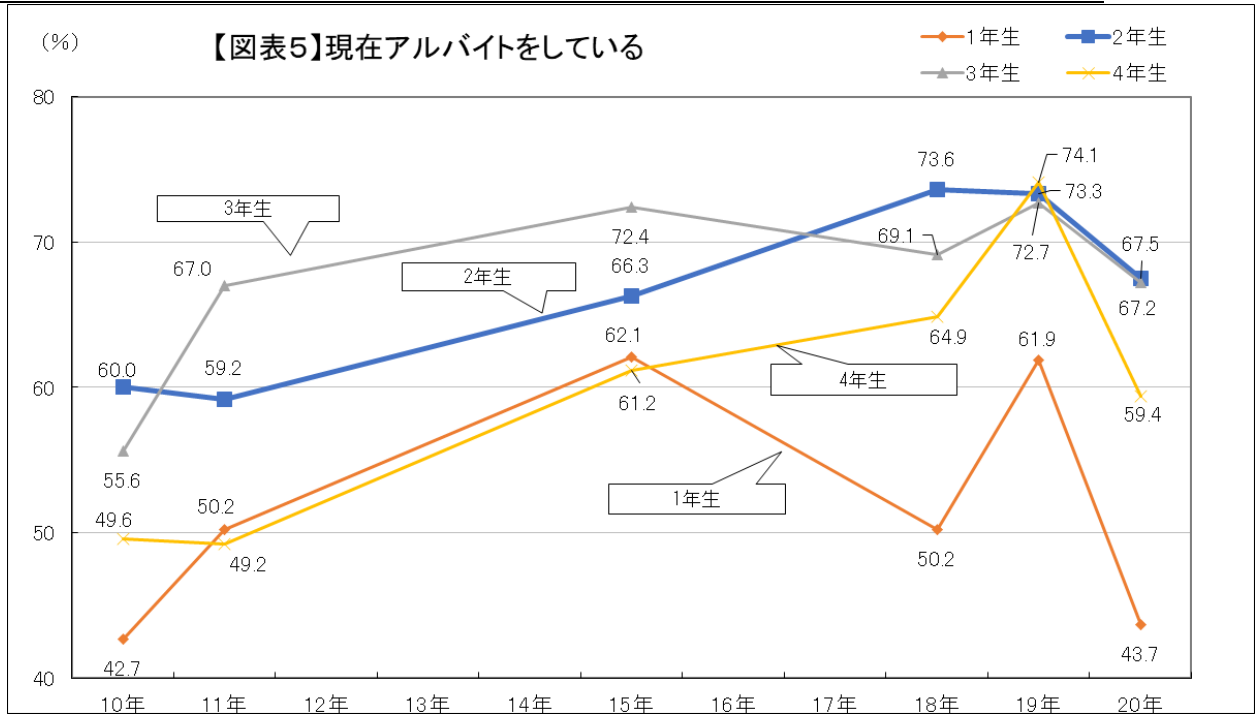
【図表4】受給している奨学金の種類 (％)

	16年	17年	18年	19年	20年	自宅生	下宿生	寮生	男性	女性	文系	理系	医歯薬
奨学金受給率	39.5	40.7	35.7	41.0	36.9	42.5	34.7	39.1	37.4	35.8	39.8	37.1	25.8
貸与型を受給している	38.1	37.9	31.6	36.7	28.9	32.3	27.4	34.8	29.9	28.0	29.3	30.5	20.0
貸与型のみ受給	36.8	36.8	29.9	34.3	25.4	27.6	24.4	28.3	25.8	25.1	25.0	27.1	18.3
貸与型+給付型受給	1.3	1.1	1.7	2.4	3.5	4.7	3.0	6.5	4.1	2.9	4.3	3.4	1.7
給付型を受給している	2.3	2.3	4.4	5.1	9.8	13.8	8.4	10.8	10.2	9.4	13.7	8.2	5.0
給付型のみ受給	1.0	1.2	2.7	2.7	6.3	9.1	5.4	4.3	6.1	6.5	9.4	4.8	3.3
無回答・不明	0.8	0.5	1.3	1.4	1.1	0.7	1.3		0.7	0.8	0.8	1.5	

(4) アルバイト (図表 5~7)

アルバイト就労率がすべての学年で減少、とりわけ1年生の減少が顕著
半年間のアルバイト収入は 40,000 円減少し、使途から活動を制限された学生が見える
2年生以上では、勤務先からアルバイトシフトを減らされた経験は 6 人に 1 人

- ① 半年間 (4~9 月) のアルバイト就労率は 66.9%と前年から 15.9 ポイント減少した。学年別では 1 年生の減少が大きく、1 年生 48.7% (前年▲26.4 ポイント)、2 年生 76.4% (同▲10.7 ポイント)、3 年生 74.6% (同▲10.6 ポイント)、4 年生 71.6% (同▲11.9 ポイント)。コロナ禍の営業自粛や時短営業、雇用打切り・募集なしなどが強く影響している結果となった。
- ② 社会的生活行動制限の影響を大きく受けた 1 年生の「新規にアルバイト先を探したが見つからなかった」(7.3%) は、2~4 年生より 4 ポイント前後多い。(図表 5・7)
- ③ アルバイトをした人の半年間の収入 (有額平均) は 248,000 円で、前年から 40,000 円の減少となった。
- ④ アルバイト収入が「大きく減少した」+「減少した」は 42.6%、「変わらない」45.4%、「増加した」+「大きく増加した」が 11.7%となった(「アルバイトをした」を 100 として)。
- ⑤ アルバイト収入の使途として、「サークル費用」(前年▲13.1 ポイント)、「旅行・レジャー費用」(同▲13.5 ポイント) の減少が目立つ。反面、「生活費のゆとり」(同+9.1 ポイント)、「生活費の維持」(同+4.8 ポイント) が増加した。コロナ禍で行動が制約されている状況が表れている(「アルバイトをした」を 100 として)。(図表 6)
- ⑥ アルバイトの実態では「勤務先からシフトを減らされた」「アルバイト先の休業で勤務できなかった」が、2 年生以上で目立っている。(図表 7)



【図表7】この半年間のアルバイト状況 (%)

	20年	1年生	2年生	3年生	4年生
引き続きアルバイト勤務があった	31.8	18.4	37.1	39.2	35.4
アルバイト先の休業で勤務できなかった	2.3	0.6	3.2	1.7	3.7
新規にアルバイト先を探して勤務した	18.0	22.8	22.9	14.2	10.7
新規にアルバイト先を探したが見つからなかった	4.7	7.3	3.9	2.6	4.4
新型コロナの脅威でアルバイトをしなかった	5.6	7.6	3.9	6.0	4.4
アルバイト勤務・シフトを勤務先から減らされた	16.7	5.1	18.2	22.4	24.0
アルバイト勤務・シフトを自分から減らした	8.9	4.1	9.6	10.8	12.2
以前からアルバイトをしていない	17.7	31.6	11.8	12.1	12.5
コロナ以外の理由でアルバイトをしていない	1.3	0.6	0.7	1.3	2.6
途中でアルバイト先の休業・閉店などがあった	0.1		0.4		
その他	1.3	1.3	1.4	1.3	1.1
無回答	3.9	4.7	2.9	3.0	4.8

(5) 暮らし向き (図表 8)

収入面の対策は「我慢する」「特に対策はない」が増加

- ① 暮らし向きが「大変楽な方」+「楽な方」は60.2%で5年連続増加したが、これから先の見通しは「かなりよくなりそう」+「少しはよくなりそう」16.7%と前年から2.7ポイント減少した。
- ② また、「少し苦しくなりそう」+「かなり苦しくなりそう」は23.2%で、1年生15.8%、2年生26.8%、3年生29.3%、4年生23.2%と学年が上がるほど先の見通しを「苦しくなりそう」と見ている。
- ③ 収入面の対策は「アルバイトの増加」46.2% (前年▲9.4ポイント)、「特にない」24.7% (同+4.1ポイント)、「我慢する」18.6% (同+5.5ポイント)、「奨学金の申請」4.5% (同▲2.5ポイント)、「仕送りの増加」5.0% (同+1.3ポイント)となっている。自ら収入を増やす「アルバイトの増加」や「奨学金の申請」が減少し、「特にない」「我慢する」など「耐える」対策をしている。(図表 8)

【図表8】生活費の収入面の対策

	(%)				
	16年	17年	18年	19年	20年
仕送り(小遣い)を多くしてもらう	4.3	3.9	3.8	3.7	5.0
アルバイトを増やす	54.4	51.9	53.3	55.6	46.2
奨学金を申請する	3.9	6.8	4.8	7.0	4.5
収入が減っても我慢する	16.0	15.3	16.7	13.1	18.6
その他(20年からの選択肢)					0.9
特に対策はない	20.7	21.7	21.4	20.6	24.7
無回答	0.7	0.3			

(6) 半年間の特別費 (図表 9)

「合宿」「留学」「旅行」「就職活動」は大きく減少

- ① 20年4~9月に支出した特別な費用の有額平均額(0を含まない平均)は164,700円で前年から28,700円減少となった。
- ② 「合宿代」「国内旅行」「海外旅行」「帰省代」「留学」「就職活動」などは減少し、課外活動の制限の影響として表れていると考えられる。
- ③ 「耐久消費財や高額商品の購入(パソコン・情報機器関連・スマホなど)」、「各種スクール(資格などの講座やスクール、eラーニングなど)」などは増加した。
- ④ 自己負担額は72,400円で前年から14,900円減、自己負担率も47.6%で前年から2.3ポイント減少した。

【図表9】特別費の金額・実施比率(4~9月)と今後の予定(10~3月の予定)

	実額平均(円)			有額平均(円)			実施比率(%)			予定あり(%)		
	18年	19年	20年	18年	19年	20年	18年	19年	20年	18年	19年	20年
合宿代	10,300	7,400	3,900	31,800	30,600	26,300	27.0	20.3	12.3	14.1	11.1	16.5
国内旅行	25,800	28,500	17,700	57,800	63,300	46,300	37.1	37.7	31.8	38.2	34.7	30.8
海外旅行	11,800	11,700	1,100	145,600	141,500	160,000	6.7	6.9	0.5	9.6	9.1	1.3
帰省代	16,400	13,600	12,900	32,100	32,800	28,400	42.6	34.8	37.7	40.1	32.8	47.7
留学	4,600	6,400	1,600	282,700	285,000	236,700	1.3	1.9	0.5	2.5	2.0	0.5
運転免許	45,400	57,800	54,900	268,100	275,400	271,100	14.1	17.6	16.8	9.9	6.9	8.2
各種スクール	3,300	3,600	5,200	74,500	97,700	52,800	3.7	3.1	8.2	2.7	2.1	3.9
高額商品購入	12,300	14,700	27,100	70,700	82,500	95,300	14.5	14.9	23.7	6.6	7.0	8.2
衣料品	16,000	16,200	16,800	29,500	29,500	28,500	45.0	46.0	49.0	31.9	29.3	39.5
引越し	3,800	3,400	3,400	68,600	85,000	81,000	4.7	3.4	3.5	8.1	6.8	9.6
就職活動	7,700	10,000	6,800	54,600	51,400	40,600	11.8	16.3	13.8	8.2	11.1	10.8
その他	900	1,400	900	52,200	47,200	56,400	1.5	2.5	1.4	1.5	1.6	1.4
合計	158,300	174,900	152,200	170,400	193,400	164,700						
自己負担額	85,100	87,300	72,400	102,500	106,700	92,300						
自己負担率(%)	53.8	49.9	47.6	60.2	55.2	56.0						

(7) 大学納付金支払者、家計支持者の収入変化 (図表 10~11)

授業料などの学校納付金を負担する学生は 13.5% (一部負担含む)

「主な家計支持者」の収入は 18.2%が減少

- ① 授業料などの大学納付金 (学費) の「保護者・親族」「自分」「学費免除の手続きをしている」を組み合わせた支払者は「自分」13.5%で、一部負担も含め 1 割以上の学生が学費を負担している。「保護者・親族」は 82.7%、「学費免除...」3.5%となっている。この中で「保護者・親族のみ」は 76.4%、「自分 (奨学金・アルバイト収入など) のみ」も 6.7%いた。(図表 10)
- ② 半年間で「主な家計支持者」の収入が「大きく減少した」+「減少した」は 18.2%となっている。大学納付金の負担感が増したことがうかがわれる。(図表 11)

【図表 10】 大学納付金の支払者 (％)

	20年	自宅生	下宿生	寮生	男性	女性	文系	理系	医歯薬	1年生	2年生	3年生	4年生
保護者・親族	82.7	77.1	85.3	71.7	83.8	83.3	79.8	83.3	89.2	83.2	82.9	84.5	80.4
自分(奨学金・アルバイト収入)	13.5	22.5	10.2	15.2	14.0	12.3	16.6	12.8	6.7	14.2	14.3	12.1	12.9
学費免除の手続きをしている	3.5	1.5	4.1	6.5	3.8	3.4	3.6	4.1	0.8	3.8	1.1	3.9	5.5
保護者・親族のみ	76.4	66.2	80.6	67.4	77.2	77.8	72.2	77.3	85.8	73.7	77.5	80.6	74.9
自分のみ	6.7	11.6	4.6	13.0	6.7	6.8	8.9	6.0	3.3	4.7	8.6	5.6	8.1
免除のみ	1.3		1.5	4.3	1.2	1.6	1.0	1.5	0.8	0.3	0.7	1.3	3.0
保護者・親族+自分	5.2	10.2	3.6	2.2	5.4	4.4	6.1	4.9	3.3	7.3	5.4	3.9	3.7
保護者・親族+免除	0.7	0.7	0.6	2.2	0.7	0.8	1.0	0.7		1.3			1.5
自分+免除	1.2	0.7	1.4		1.5	0.8	1.0	1.5		1.3	0.4	2.6	0.7
保護者・親族+自分+免除	0.4		0.5		0.4	0.3	0.5	0.3		0.9			0.4
無回答	8.1	10.5	7.1	10.9	6.9	7.6	9.2	7.7	6.7	10.4	7.5	6.0	7.7

【図表 11】 「主な家計支持者」の収入の変化 (％)

	20年	自宅生	下宿生	寮生	文系	理系	医歯薬	国立	私立
大きく減少した	3.0	2.2	3.5		2.5	4.2	3.3	2.9	2.5
減少した	15.2	13.1	15.4	23.9	14.0	18.3	12.8	16.2	18.3
減少した計	18.2	15.3	18.9	23.9	16.5	22.5	16.1	19.1	20.8
変わらない	38.1	41.1	37.8	26.1	37.7	39.4	43.1	33.2	45.8
増加した	1.4	1.1	1.4	2.2	1.3	1.3	1.5	1.4	0.8
大きく増加した	0.1		0.1		0.1			0.2	
増加した計	1.5	1.1	1.5	2.2	1.4	1.3	1.5	1.6	0.8
わからない	37.0	34.9	37.5	41.3	39.3	32.1	32.9	41.1	30.8
無回答	5.2	7.6	4.2	6.5	5.1	4.7	6.4	5.1	1.7

2. 大学生生活・学生の意識

(1) オンライン授業・対面授業の状況、登校日数（図表 12～14）

オンライン授業を受講する学生は全学年で 88.0%、1 年生では 99.7%

1 週間の登校日数「0 日」は 6 人に 1 人

平均登校日数は 2.0 日、前回調査(4.5 日)から半減超

- ① 調査時（20 年 10～11 月）の「最近 1 週間の授業形態」は、「対面授業のみ」5.9%、「オンライン授業のみ」15.1%となっている。「すべて対面授業」は 4 年生の 16.2%に比べて、1 年生 0.3%、2 年生 3.2%と低学年に少なく、オンライン授業（「すべてオンライン授業」「対面授業とオンライン授業の併用」）は 88.0%、1 年生 99.7%、2 年生 96.0%、3 年生 94.9%、4 年生 60.2%となっている。（図表 12）
- ② 最近 1 週間の登校日数は、平均 2.0 日で前年（4.5 日）から半分以下となった。登校 0 日・1 日が大幅に増え、4 日・5 日が大幅に減った。（図表 13）

【図表 12】最近 1 週間の授業形態

(%)

	20年	文系	理系	医歯薬	1年生	2年生	3年生	4年生
すべて対面授業で行われている	5.9	2.6	5.8	17.5	0.3	3.2	4.7	16.2
すべてオンライン授業で行われている	15.1	14.3	16.9	9.2	2.8	19.6	19.4	21.0
対面授業とオンライン授業があり対面授業が多い	9.8	9.7	9.9	10.0	5.4	13.6	14.2	7.4
対面授業とオンライン授業がありオンライン授業が多い	56.4	59.9	55.4	50.0	82.6	55.7	57.3	25.8
対面授業とオンライン授業が同じくらい	6.6	7.1	6.3	6.7	8.9	7.1	3.9	5.9
大学による休講中	0.1		0.2			0.4		
すでに単位取得済み	4.0	5.9	3.1	2.5		0.4	0.4	15.5
その他	2.0	0.5	2.6	4.2				8.1

【図表 13】1 週間の登校日数（学年別）

(%)

	合計		1年生		2年生		3年生		4年生	
	19年	20年	19年	20年	19年	20年	19年	20年	19年	20年
0日	1.8	16.9	0.2	3.5		22.2	0.5	19.8	8.1	24.7
1日	4.1	20.3		22.2	0.2	23.0	0.5	18.5	20.4	17.0
2日	3.3	17.8	0.2	27.5	1.1	14.7	3.6	18.1	10.4	9.6
3日	7.8	17.6	3.1	25.9	4.4	15.1	14.1	15.9	12.0	11.8
4日	19.2	9.6	17.7	10.1	22.9	12.1	23.4	10.3	10.7	5.9
5日	51.1	13.2	63.5	8.2	56.9	10.0	50.8	11.2	24.9	24.0
6日	8.8	2.6	11.6	1.9	9.8	1.8	4.2	3.0	8.7	4.1
7日	4.0	1.8	3.7	0.6	4.7	1.1	2.9	3.0	4.9	3.0
平均(日)	4.5	2.0	4.9	2.0	4.8	1.8	4.4	2.0	3.3	2.2

※20年は休講中以外を100として

【図表 14】1 週間の登校日数（地域別）

(%)

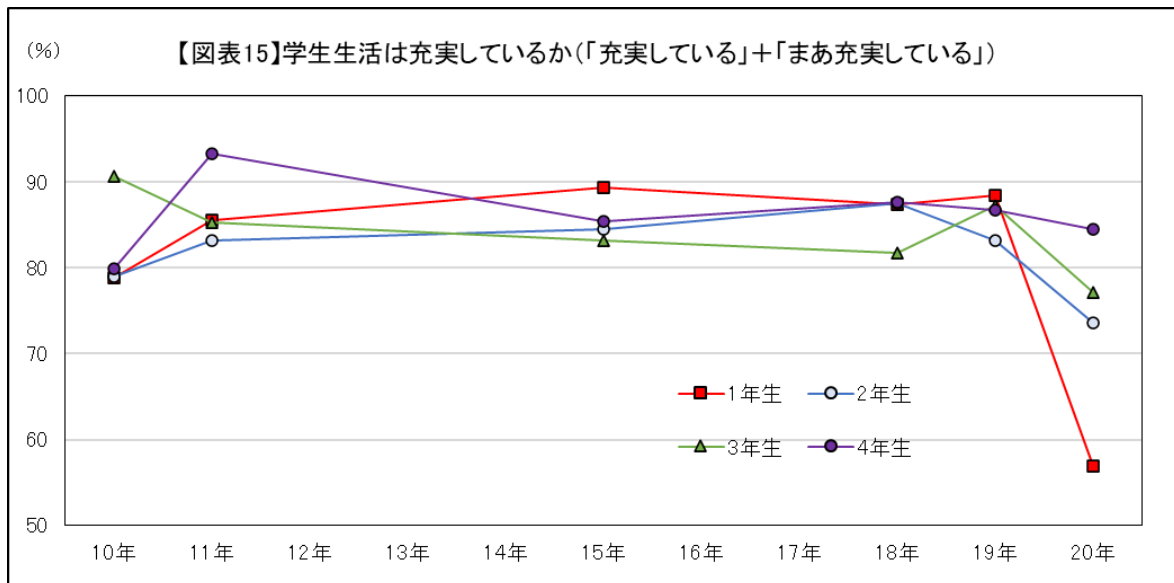
	全国	北海道	東北	1都3県	北甲	東京	東海	京都	北陸	阪神	中四	九州
	0日	27.1	16.9	24.0	46.5	54.1	46.2	16.9	17.5	6.4	19.0	24.9
1日	22.8	20.3	15.0	24.3	16.3	23.7	17.5	24.8	9.5	24.2	16.5	20.8
2日	15.3	17.8	8.9	11.8	6.2	11.4	20.5	17.7	12.6	18.2	15.9	16.8
3日	11.2	17.6	8.6	8.0	2.9	7.7	18.0	12.5	13.6	15.4	12.9	11.1
4日	8.4	9.6	12.9	4.2	7.5	4.5	12.6	9.6	17.3	10.4	10.9	9.8
5日	12.0	13.2	24.8	4.1	10.8	4.6	11.8	14.2	31.0	9.8	14.9	15.7
6日	2.1	2.6	3.8	1.1	0.4	1.1	2.1	2.5	6.4	1.8	2.7	2.1
7日	1.1	1.8	1.8	0.7	1.7	0.8	0.6	1.2	3.2	0.9	1.3	2.3
平均(日)	2.0	2.4	2.7	1.2	1.4	1.2	2.4	2.3	3.6	2.2	2.3	2.3

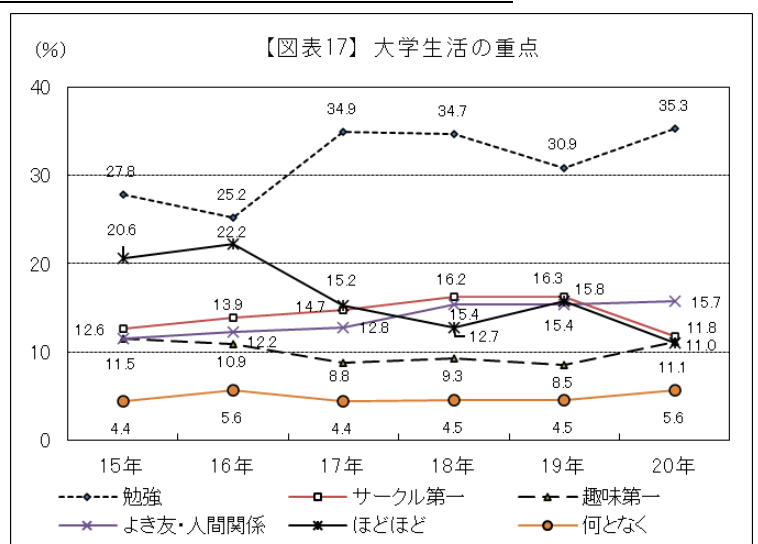
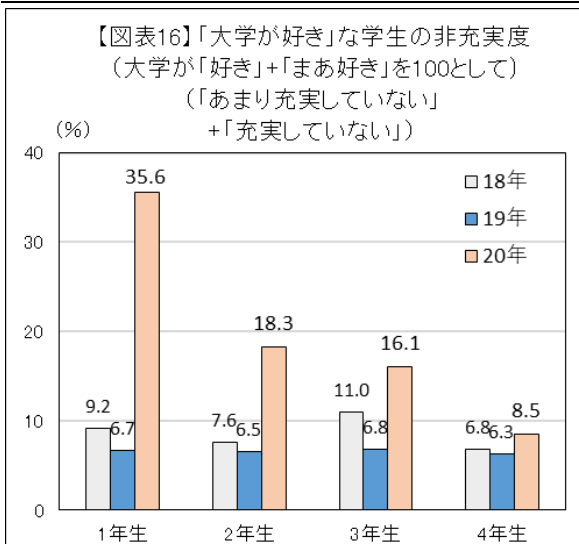
※休講中以外を100として

(2) 学生生活の充実度と大学生生活の重点 (図表 15~17)

「学生生活が充実している」と感じる1年生は2010年以降最低値
サークルの加入状況も大きく減少

- ① 学生生活が「充実している」+「まあ充実している」は72.2%と前年から14.1ポイント減少し、05年から80%以上が続いていたが大きく下回った。特に1年生では56.9%とこの設問を設けた83年以降最低値となった(図表15)。「思い描いていた大学生活ではない」学生の思いが表れた結果であると言えるだろう。
- ② 「大学が好き」+「まあ好き」と答えた学生でも、学生生活の充実度が20年は突出して下がっている。(図表16)
- ③ 大学を選んだ理由として「学びたい専門分野があった」とする学生の充実度も下がっている。「学びたい専門分野があったから」45.7%を100として
 - ・合計 77.2% (前年▲13.9ポイント)
 - ・1年生 55.6% (同▲38.6ポイント)、2年生 81.3% (同▲8.3ポイント)、3年生 84.4% (同▲5.4ポイント)、4年生 88.8% (同▲1.5ポイント)
- ④ 大学生活で現在最も重点を置いていることは、「勉学や研究」35.3%、「よき友を得たり、豊かな人間関係を結ぶこと」15.7%、「部活動・サークル・同好会活動」11.8%と続く。「部活動・サークル・同好会活動」11.8% (前年▲4.5ポイント、1年生は▲9.2ポイント、2年生は▲7.3ポイント、3年生は+4.7ポイント、4年生は▲2.2ポイント)。「勉学や研究」は前年から4.4ポイント増加で1年生は32.3% (前年+5.8ポイント) と増加が大きい。(図表17)
- ⑤ サークルの加入状況53.0% (前年▲15.1ポイント)、1年生は43.4%と前年より31.9ポイント減少している。20年4月に加入した1年生は2.8%で、大学の風物詩である春のサークル勧誘がほとんどない状況だったと言える。

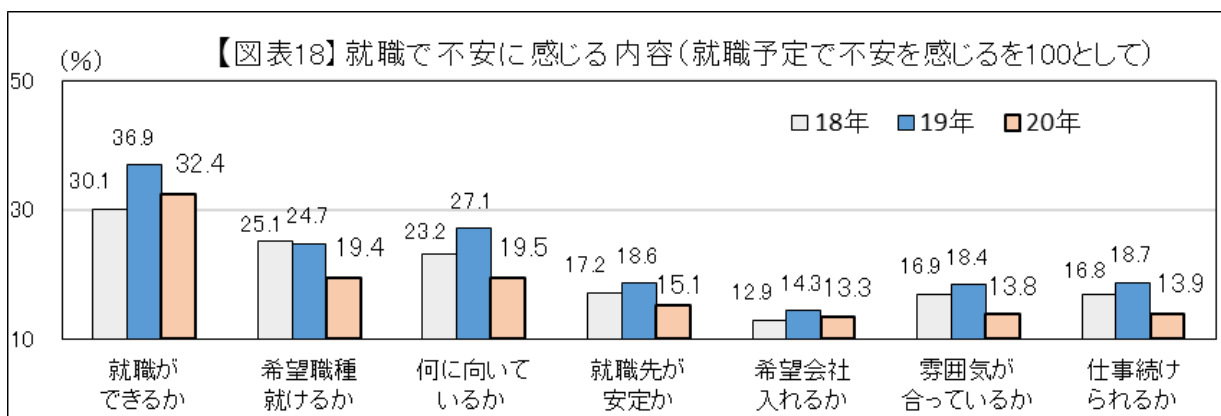




(3) 就職について (図表 18)

「就職ができるか」不安を感じる学生は減少

- ① 就職に対して不安を「とても感じている」+「感じている」は全体の 75.4% (前年+4.4 ポイント)、2 年生 88.9% (前年▲1.1 ポイント)、3 年生 87.3% (前年+0.2 ポイント) とこれから本格的に就職活動を行う学年で不安が微増している。
- ② 就職予定者のうち「不安を感じている」を 100 として、「就職ができるか」(内定がもらえるか) 32.4% (1 年生 29.7%・2 年生 40.0%・3 年生 48.7%・4 年生 14.0%) は前年より 4.5 ポイント減少している (図表 18)。
- ③ 就職先を決めるにあたって 1 番目に重視する条件は「職種」、続いて「収入面の待遇」となっている。今回「安定性がある」(7.6%) と「専門性・技術・資格が身につく」(4.3%) を選択肢に加えたことで、経年の他の項目は減少した。特に前年まで伸長していた「収入面の待遇」は前年より 2.6 ポイント減、同じく「社風や職場の雰囲気」2.2 ポイント減、「福利厚生など収入面以外の待遇」3.9 ポイント減となった。
- ④ 1~3 番目を合計した重視の条件の上位 5 つは、「収入面の待遇」40.8%、「職種」28.8%、「社風や社員の雰囲気」28.8%、「収入面以外の待遇」36.0%、「安定性がある」30.4%。
- ⑤ この 1 年間で企業や団体が実施しているインターンシップに参加したことが「ある」は全体の 17.2% で前年より 2.4 ポイント減少した。インターンシップの募集や参加形態の変化の影響と思われる。参加目的は就職予定を 100 として「関心がある企業や業界を知るため」17.2%、「多くの企業や業界を知るため」10.8%となっている。



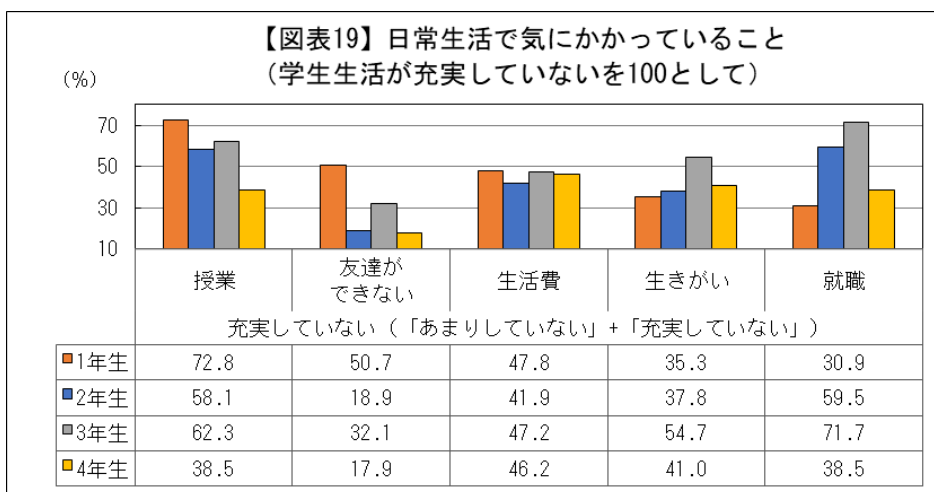
3.日常生活

(1) 日常生活の中で日頃悩んでいることや気にかかっていること (図表 19)

「友だちができない」ことに悩む1年生は前年から18.8ポイント増

「授業・勉学上のこと」に悩む学生も大きく増加

- ① 「友だちができない (いない)・対人関係がうまくいかないこと」は、17.3% (前年+4.6ポイント)。1年生 34.8% (同+18.8ポイント)、2年生 13.6% (同+0.7ポイント)、3年生 11.2% (同+1.8ポイント)、4年生 5.9% (同▲5.8ポイント) と特に1年生の増加が大きい。
- ② また学生生活が「充実していない」+「あまりしていない」と感じていて、「友だちができない」と気にかけている1年生は50.7%と過半数に上り、2~4年生よりも高い。(学生生活が「充実していない」+「あまりしていない」を100として) (図表 19)
入学式や各種オリエンテーションの中止が相次ぎ、課外活動の制限が続く状況で、1年生どうしが直接つながる機会が失われたことによるものと考えられる。
- ③ 「授業・レポート等勉学上のこと」は、50.0% (前年+13.1ポイント)。1年生 65.2% (同+19.7ポイント)、2年生 56.1% (同+15.7ポイント)、3年生 47.4% (同+15.9ポイント)、4年生 28.4% (同+2.8ポイント) と1~3年生が目立って増加。
- ④ 「就職のこと」は40.1% (前年▲0.5ポイント)。1年生 28.5% (同▲4.1ポイント)・2年生 45.0% (同+1.9ポイント)、3年生 60.8% (同+5.9ポイント)、4年生 31.0% (同+0.3ポイント) とこれから就職活動を行う2・3年生が景気停滞を意識してか、特に不安視している。
- ⑤ また「生きがいなどが見つからないこと」23.0% (前年+0.1ポイント)は自宅生 20.7% (同▲1.6ポイント)と自宅外生(寮生除く) 23.7% (同▲1.6ポイント)。「サークル等の活動のこと」13.4% (同+0.6ポイント)は、1年生 19.0% (同+2.6ポイント)、2年生 15.4% (同+0.7ポイント)、3年生 11.2% (同▲2.1ポイント)、4年生 6.6% (同+2.7ポイント)である。
- ⑥ 悩んでいることを相談する相手が「いる」は79.9%、「いない」が20.1%となっている。相談相手がない学生が全体の2割を超えるのは、北海道では2002年以来18年ぶり。最も相談しやすい相手は「友人」38.9%、「親」24.8%で、「友人」は前年から1.9ポイント減、「親」は3.6ポイント増となっている。



(2) 食事 (図表 20)

増加傾向にあった朝昼兼用食が更に増加
20年はコロナ禍も影響か

- ① 1日の食事摂取率は、朝昼兼用食(9~11時の食事)29.2%と夕食(17~21時)84.1%が前年より高くなっている。(図表20)
- ② 自宅生・自宅外生ともに、2018年以降、朝食(～9時)は減少傾向にあり、朝昼兼用食(9～11時)が増加している。11時までの食事が、他の時間帯における食事に比べて変化が大きいことも特徴的である。
- ③ 食事の摂取状況は、朝食(～9時)、朝昼兼用食、昼食(11～14時)、中間食(14～17時)、夕食、深夜食(21時以降)の時間帯で区切っているため、学生の生活習慣の変化が影響していると思われる。

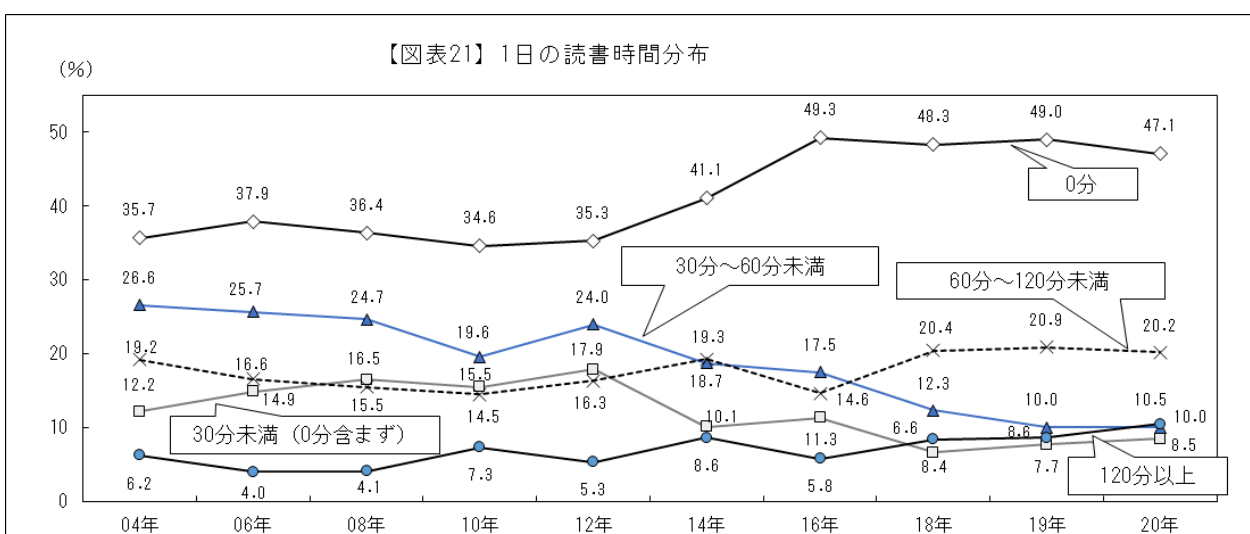
【図表20】食事の摂取率 (%)

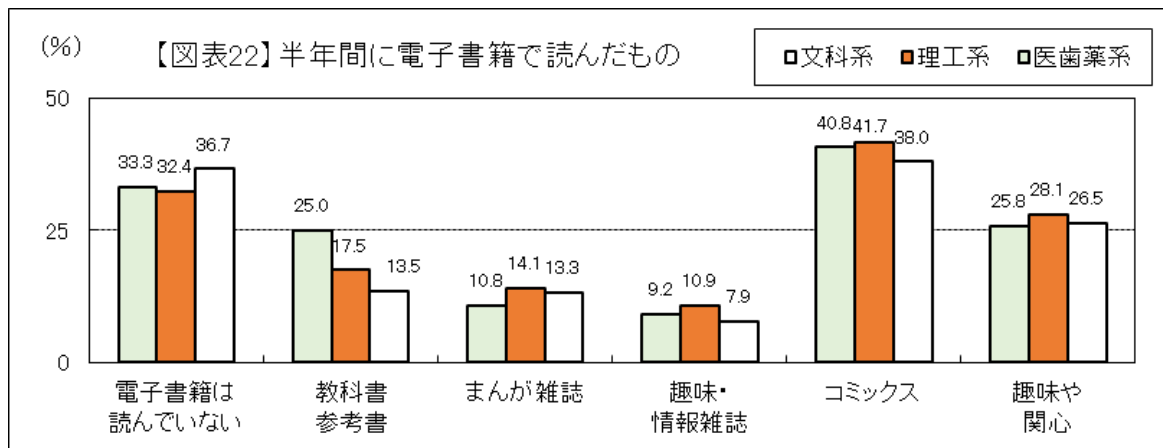
		16年	17年	18年	19年	20年
		朝食	66.5	67.9	69.3	65.9
兼用食	自宅生	56.6	57.3	61.0	56.3	51.0
	自宅外生	60.4	61.5	63.7	60.3	53.5
	合計	17.4	17.9	26.6	28.1	36.4
朝昼兼用食	自宅生	19.0	15.2	20.9	26.3	26.8
	自宅外生	18.4	16.3	22.8	27.1	29.2
	合計	80.4	77.1	71.2	74.9	71.6
昼食	自宅生	81.3	79.0	78.1	78.7	73.1
	自宅外生	80.9	78.3	75.9	77.1	72.7
	合計	23.7	18.9	22.5	23.4	24.0
中間食	自宅生	17.3	15.3	18.2	21.9	19.5
	自宅外生	19.7	16.7	19.6	22.5	20.7
	合計	81.1	76.4	80.1	82.7	86.2
夕食	自宅生	84.4	82.2	82.5	80.1	83.4
	自宅外生	83.2	79.9	81.7	81.2	84.1
	合計	22.3	21.2	19.9	20.8	15.6
深夜食	自宅生	19.1	19.3	22.8	21.9	18.3
	自宅外生	20.3	20.1	21.8	21.4	17.7
	合計					

(3) 読書時間・電子書籍 (図表 21~22)

1日の読書時間は増加/読書をしない人が減少

- ① 1日の読書時間の平均は34.0分(前年+2.5分)、有額平均(読んだ人の平均)は66.6分と同じく2.2分伸びた。
- ② 「30分～60分未満」10.0%(前年±0ポイント)、「60分～120分未満」20.2%(同▲0.7ポイント)、「120分以上」10.5%(同+1.9ポイント)。「60分以上」は30.7%になり、16年から増加を続けている。(図表21)
- ③ 「0分」は47.1%で、前年から1.9ポイント減った。
- ④ 今回、半年間(20年4～9月)に電子書籍で読んだものを調査したところ、「コミックス」40.3%、「趣味や関心のための書籍」9.6%、「教科書や参考書」16.9%で利用されている。一方「電子書籍は読んでいない」34.0%であった。(図表22)





(4) 勉強時間 (図表 23~24)

1日の勉強時間は大学の勉強・大学以外の勉強ともに増加

※20年の授業時間は、対面とオンラインそれぞれの授業時間数を調査した。

- ① 全体では、1日の「総勉強時間（授業時間+大学の勉強+大学以外の勉強）」が302.0分で26.4分増加した。「大学の勉強（予習復習）」58.9分（前年+24.1分）、「大学以外（趣味等）の勉強」25.8分（同+2.8分）と増加している。特に、オンデマンド方式の授業や課題に当てられる時間が増加の要因であると考えられる。
- ② 学年別では特に1~3年生で「大学の勉強」時間が増加している。1日あたりの勉強時間は、1年生60.4分（前年+28.1分）、2年生59.0分（同+30.3分）、3年生51.7分（同+11.9分）で、それに伴い1日の「授業+大学の勉強」時間も伸長し、1年生は334.0分（同+44.3分）、2年生320.1分（同+38.1分）、3年生284.4分（同+28.4分）になった。

